

特定事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市伏見区南浜町247番地								
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	月桂冠株式会社 代表取締役社長 大倉 治彦								
特定事業者の主たる業種	清酒製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	環境マネジメントシステムを導入し、エネルギー使用量の削減、省資源化の推進などの環境保全活動に積極的に取り組むことにより、CO2排出量の削減を図る。								
推進体制	社長を最高責任者とした環境マネジメントシステムの組織を編成、年間の環境改善計画を設定し、その計画に基づいた活動を行い、進捗状況を月次管理することにより環境の継続的改善を推進する。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	伏見地区全域							
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	2008年7月							
	年度	設備, 対象, 工程等	措置内容						
	20	製品ライン(F1)	既存設備の老朽に伴う更新(高効率設備の採用)						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (20)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	14,377.5 t	13,946.3 t	-3.0 %	14,177.3 t	-1.4 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	14,377.5 t	13,946.3 t	-3.0 %	14,177.3 t	-1.4 %			
実績に対する自己評価	積極的な省エネ対策(省エネタイプの空調機器の導入、機器のインバータ制御化、建屋(総量)の断熱施工)の効果が表れた。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	製造部門	二酸化炭素換算 (詰口容量(KL))	0.255 t/KL	0.247 t/KL	-3.1 %	0.230 t/KL	-9.8 %		
	営業部門	二酸化炭素換算 (延床面積)	0.107 t/m <sup>2</sup>	0.104 t/m <sup>2</sup>	-2.8 %	0.098 t/m <sup>2</sup>	-8.4 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	生産効率の優れた新しいラインの導入が削減に大きく寄与した。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)				
		取組量等			取組量等				
		(二酸化炭素換算)			(二酸化炭素換算)				
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			t				t	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	京都市、周辺地域の環境保全活動への参加								
特記事項	・2008年7月にISO14001の認証を受け、省エネに対する関心が高まった。 ・各機器に省エネタイプを採用した、新しい製品詰口ラインを導入した。								

注1 該当する口には、レ印を記入してください。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(製造品出荷額、延床面積、走行距離等)を記入してください。  
 5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度(実績)」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

